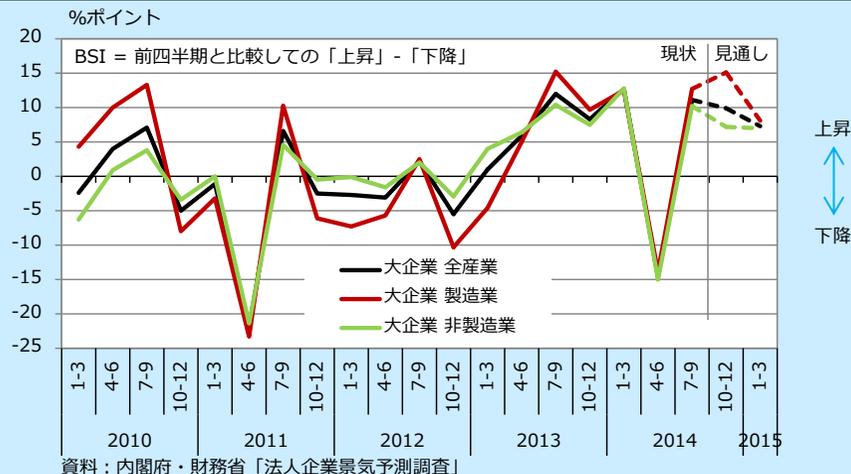


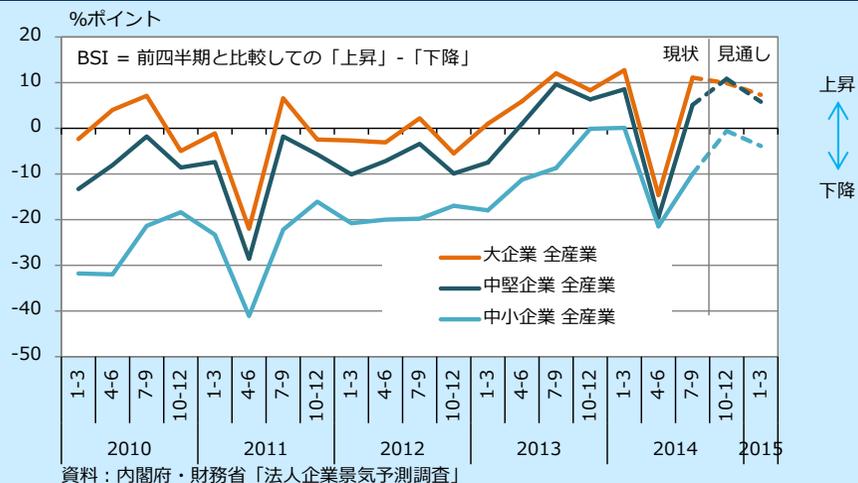
## 日本：法人企業景気予測調査（2014年7-9月）

MRI Daily Economic Points  
September 12, 2014

図表 大企業の景況判断BSI



図表 企業規模別の景況判断BSI



## 評価ポイント

## 今回の結果

- 2014年7-9月期の景況判断BSI(Business Survey Index)は、大企業全産業が+11.1%ptと2四半期振りのプラスとなった。内訳をみると、製造業が+12.7%ptと2四半期振りの「上昇」超、非製造業が+10.2%ptの「上昇」超。
- 大企業の景況判断BSIを業種別にみると、農林水産業を除くすべての業種で「上昇」超となった。ただし、4-6月期の下落幅との対比では、製造業では自動車や紙パ、金属製品などの戻りが遅く、非製造業では卸売や小売の回復が特に鈍い。
- 企業規模別では、中堅企業が+10.2%ptと再び「上昇」超となった一方、中小企業は▲10.0%ptと「下降」超にとどまり、増税前と比べ「回復は鈍い」と判断している様子が伺われる。
- 先行き見通しは、10-12月期、15年1-3月期ともに、大企業・中堅企業では「上昇」超となった。製造業を中心に14年度後半にかけて景況は改善持続が見込まれている。一方、中小企業は「下降」超が続いている。
- 景況判断以外の調査項目では、従業員数の不足感が前回4-6月調査よりおしなべて高まったほか、14年度の設備投資計画も前回から小幅ながら上方修正された。一方、売上や経常利益の14年度見通しは、下期を中心に総じて下方修正されている。

## 基調判断と今後の流れ

- 企業の景況感は、消費税増税の影響から4-6月期に一時的に落ち込んだものの、回復の動きがみられる。14年度後半にかけても景況感の回復持続が見込まれている。ただし、卸小売など一部の業種の回復力は鈍いほか、中小企業も景況悪化が続く見通しとなっている。天候要因などが影響している可能性もあり、今後の景況感の回復のテンポや中身(非製造業への拡がり)に注目していく必要がある。